

シンポジウム2

献血ルームで“つなぐ献血のキズナ” —献血者の気持ち—

東保一葉¹⁾、中澤早紀¹⁾、山野由佳¹⁾、名執裕哉¹⁾、小澤真由美¹⁾、渡邊美紀¹⁾、
佐野美紗子²⁾、赤井洋美¹⁾、秋山進也¹⁾、土橋秀徳¹⁾、中村 弘¹⁾、杉田完爾¹⁾
(山梨県赤十字血液センター¹⁾、日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター²⁾)

【はじめに】

山梨県赤十字血液センターでは、「つなぐ献血のキズナ」と銘打ち、2014年から甲府献血ルーム(以下、ルーム)で献血者と患者をつなぐ活動を行っている。この活動は、センター内につなぐ献血のキズナ作業部会を設置し取り組んでいる。メンバーは全6課(総務課、献血推進課、採血課、供給課、学術・品質情報課、甲府出張所)から選出された11名で構成されているが、全職員50名程度の小規模センターであるため、センター全体で取り組んでいる活動と言える。今回、献血者にアンケート調査を行い、直接献血者と接する看護師として、献血者の気持ちからこの活動を行う意義を検証したので報告する。

【活動の実際】

1. 感謝のメッセージを献血者へ配付

輸血を受けた方や、その家族から届いた感謝の

メッセージを使用し、メッセージカード「『ありがとう』を届けたい」を作成した(図1)。それを処遇品のポケットティッシュに差し込み、ルームにおいて献血者に接遇で配付している。感謝のメッセージは毎月更新しており、2018年10月までに46種類のメッセージを献血者へ届けた。メッセージカードのデザイン、印刷、差し込み作業等、すべて作業部会が手作業で行っている。

2. 応援メッセージポスターを患者に届ける

献血者に、患者への応援メッセージをカードに記入してもらい、収集したカードをA3の用紙に直接貼りラミネートをした手作りのポスターを作成し、病院に掲示している。これまでに22枚のポスターを県内8施設に届け、輸血を行う病棟や外来などに掲示しており、定期的に貼り換えを実施している。



図1 メッセージカード「『ありがとう』を届けたい」

3. 院内学級との交流

山梨大学医学部附属病院院内学級では、砂澤敦子教諭の協力によって、献血者からの応援メッセージポスターを見た輸血経験がある子どもたちにより献血者に向けた感謝の手紙や絵が作成された。それを献血者に届けるために、ルームに専用掲示板「つなげたい広げたい」を設置して、子どもたちの絵や直筆の手紙を紹介している。献血者からは子どもたちに向けた応援メッセージを収集し、それをポスターにして院内学級に届け、そのポスターを見た子どもたちからまた手紙が届くという形で、「感謝」と「励まし」のサイクルができあがった。

【アンケート調査の実施】

ルームにおける献血者(不採血者を含む)を対象とし、調査期間は14日間、回答数475、回収率は78.0%だった。回答者内訳は、男性が多く、年代は多い順に40代、50代、30代、20代となっており、これらはルームにおける献血者の比率と同様であった。

【結果】

アンケート内容と回答の詳細は表1に示す。献血者の63.6%は「病に苦しむ人を助けたい」という気持ちを持って献血していることが分かった。呼びかけがあったからや、処遇品・お菓子・飲み物などが欲しくて献血している人は少数だった。輸血を受けた方やその家族からのメッセージを読んで、「誰かの役に立っていることを実感できた」と72.4%が回答した。また、掲示板「つなげたい広げたい」を見て、「輸血を受けた子どもたちの言葉を聞いて、献血して良かった」と45.3%の人が感じていた。献血者が患者を応援する活動については、「患者を助けたいという気持ちを表すことができる」と回答した人が最も多く、52.8%だった。

患者や院内学級の子どもたちに向けた応援メッセージを書いたことがある人は、475名中31名だった。どのような想いで書いたか、という問い合わせに対して、「メッセージを見て笑顔になってくれたらいいと思った」「自分にできることはやりたい」「病気に負けないで!」「子どもたちの心(不安、寂しさ)を思いながら」「自分には子供がないので、せめて病と闘う子どもたちのためになったらいいと思って書いた」などの回答があった。

【活動意義の考察】

前述の結果とアンケートの最後に設けた自由記述的回答より、献血者の気持ちを4つに分類し、それぞれの視点から活動の意義を考察した。

1. 病に苦しむ人を助けたい

《一人でも笑顔になれば良いと思い続けている。(40代男性30~99回)》このような気持ちを持つ献血者にとって「つなぐ献血のキズナ」は、病に苦しむ人の力になりたいという想いを形にする活動である。

2. 自分のため、なんとなく、呼びかけがあったから

《健康維持が主な目的だが、献血で助かる命もあることを実感した。(40代男性100~199回)》「つなぐ献血のキズナ」は、患者の見える化を図り、献血の意義を普及していると考える。

3. 血液ありがとう

《妻が出産時に大量の輸血が必要となりとてもお世話になったので、その恩返しにということでお世話を始めた。(40代男性30~99回)》家族の輸血に感謝して献血してくださる献血者に対して「つなぐ献血のキズナ」は、血液ありがとうの感謝を表現する場を提供している。

4. 社会貢献したい、何か人の役に立つことをしたい

《患者さんを助けるというよりは、不特定多数の方々に役立つかもしれないという感覚。(40代男性2~9回)》このような気持ちで献血を始めた献血者にとって「つなぐ献血のキズナ」は、献血により病に苦しむ人が救われることを実感できる機会になるものと考える。

【おわりに】

献血者の多くは、病に苦しむ人を助けたい、人の役に立つことをしたい、という気持ちから献血をしている。「つなぐ献血のキズナ」は、献血の先にいる患者を実感してもらい、献血の意義を考え、喜びを持って献血していただくための活動であり、今回の調査で、献血者の顧客満足度は確実に向上していると思われた。看護師の立場から「つなぐ献血のキズナ」を発展させることは、献血者に対する

表1 アンケート調査結果

質問①「あなたはどのような気持ちを持って献血をされていますか。」	
病に苦しむ人を助けたい。	63.6%
自分の健康維持のために行っている。	41.3%
家族や知人が輸血にお世話になったので、感謝の気持ちを込めている。	18.3%
職場やライオンズクラブで呼びかけがあったので協力している。	7.4%
イベントのプレゼントや、記念品・お菓子・飲み物などが欲しい。	6.5%
その他	13.5%
人の役に立ちたい、医療への貢献、社会貢献の一つとして、 助け合う気持ちを形にしたい、満足感を得るため、なんとなく、暇つぶし、等	
質問②「輸血を受けた患者さんやそのご家族からのメッセージを読まれてどのように感じましたか。」	
献血した血液が誰かの役に立っていることを実感できた。	72.4%
健康なうちは献血しようと思った。	61.9%
献血した血液がどのような人に使われているかを知ることができて良かった。	33.7%
何も感じなかった。	0.6%
読んでいない。	8.6%
質問③「掲示板『つなげたい広げたい』を読まれて、どのように感じましたか。」	
輸血を受けた子どもたちの言葉を聞いて、献血して良かった。	45.3%
病に苦しむ子どもたちを応援していきたい。	33.9%
患者さんへの応援メッセージが実際に病院や院内学級に届いていることが分かって良かった。	23.4%
院内学級のことが分かって良かった。	17.9%
何も感じなかった。	0.4%
その他	1.1%
院内学級と関係があることを初めて知った	
質問④「献血者が患者さんを応援する活動を行うことをどう思われますか。」	
患者さんを助けたいという気持ちを表すことができる良い機会だ。	52.8%
思いやりと支え合いの社会を作るための活動だ。	42.1%
患者さんをイメージして、献血の意義を実感できる。	26.5%
献血後の充実感が強くなる。	24.6%
必要ない。	1.9%

究極のCS活動であり、色々な人に思いを馳せる
きっかけを提供し、ひいては世の中に感謝と励ま

しの輪を広げていくことにつながると考える。